

やま 関の山車会館

令和元年 7月6日 開館

市の民俗文化財である
「関の山車」の保存や祭囃子などの
伝承活動の拠点として開館し、
関宿の魅力を高めていきます。

問合せ先 文化スポーツ課まちなみ文化財グループ(☎96-1218)

関の山車会館について

関の山車会館には、主屋、離れ、土蔵、山車収蔵展示棟の4棟の建物があり、主屋、離れ、土蔵の3棟は、明治中期から昭和初期に関萬古の製造販売を起業した三谷耕一氏が所有していた町屋で、関萬古の販売が行われていた大正10(1921)年頃の姿に復元しています。

主屋は、関宿の街並みや、関の山車を支えた人々について、展示・紹介しています。離れは、関宿を訪れる人の休憩の場、関宿で暮らす人の交流の場です。また、祭りやお囃子の伝承活動の場としても使用されます。土蔵では、かつて使われていた神輿の展示や関の山車と『関宿祇園夏まつり』の歴史を紹介しています。

一方、新設した山車収蔵展示棟には、今までは祭りのときにしか目にするのでできなかった山車を常時2台展示し、迫力ある山車の姿を間近で見ることができます。

ほかにも、館内では、山車の付属品を保存・展示するとともに、祭りに関する歴史資料などを多数展示しています。



①主屋



④山車収蔵展示棟



②離れ



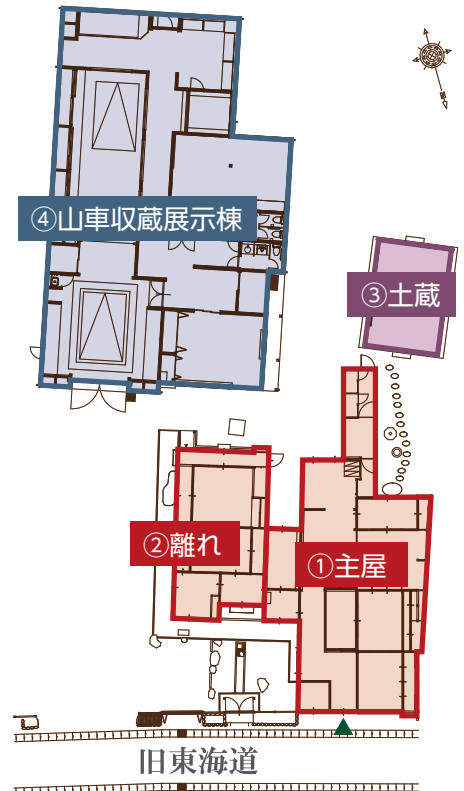
④山車収蔵展示棟(山車蔵)



③土蔵



全景



入館料 一般 300円(250円) 学生・生徒・児童 200円(150円)

3館共通入館料[関宿旅籠玉屋歴史資料館・関まちなみ資料館・関の山車会館]

一般 500円(400円) 学生・生徒・児童 300円(200円) ※()内は30名以上の団体料金

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合、その翌日)・年末年始(12月29日～1月3日)

ところ 亀山市関町中町531 (TEL 96-1103)

◆関の山車会館開館を記念して当日は無料で入館できます!

無料開放日時 7月6日(土) 正午～午後4時30分

各地区の山車の特徴



北裏

北裏の山車は、4台の山車の中で唯一のからくり人形が飾られています。

からくり人形が持っている笹の葉を使って、お湯を周りにまくことでおはら御祓いを行います。このお湯を浴びると、家内安全、商売繁盛などさまざまな授けを受けることができますと言われていています。

山車の背面に飾られる見送り幕は、「伯龍紋龍図」です。



▲「伯龍紋龍図」



木崎

木崎の山車は、4台の山車の中で最も規模が大きく、山車の正面には、お囃子を演奏する子どもが座る場所があり、「出囃子」と呼ばれています。

装飾の提灯は、紋をあしらった丸提灯のほか、消防提灯を天場(上部)正面と出囃子に取り付けています。

見送り幕は、「蝦蟇仙人図」と「橋風景図」の2種類が交互で使用されています。



▲「蝦蟇仙人図」



中町三番町

中町三番町の山車は、天障子(屋根)を付けており、破風^{※1}には三番町の「三」の字をあしらった鬼板^{※2}が付いています。

また、中町三番町の山車には龍が多く施されており、山車の天場正面に飾られる水引幕には、「雲龍図」、天場の高欄^{※3}の下には龍の彫刻があります。

見送り幕は、「昇降龍図」です。

※1…屋根についている装飾版
 ※2…鬼瓦の代わりに用いる木彫りの棟飾り
 ※3…端のそり曲がった欄干



▲「昇降龍図」



中町四番町

中町四番町の山車は、天障子を付けており、破風には四番町の「四」の字を図案化した鬼板が付いています。

4台の山車の中で唯一の漆塗りで、下場(台車部分)や内柱などの構造部分および欄間彫刻などは白木造り、外柱、高欄などは黒漆塗りで、高欄や木鼻^{※4}彫刻などには金箔が押されています。

見送り幕は、「騎龍観音図」です。

※4…柱から突き出ている部分



▲「騎龍観音図」

関の山車会館は、伝承、情報発信の拠点となってほしい



関の山車保存会
会長 竹田 邦彦さん

一関の山車会館の完成について

平成16年に関の山車保存会を立ち上げた際の目標のひとつに、活動の拠点となる施設を作ること掲げ、その目標に向かって活動を続けてきました。この関の山車

会館が、関の文化を多くの人に知ってもらえる情報発信の拠点のみならず、山車の伝承の拠点になってほしいです。

一関の山車について

関の山車はもちろんですが、お囃子や曳き歌も、他の祭りに引けを取らないぐらい素晴らしいと思っています。しかし、まだ認知度は低いと思っていますので、市内、県内へと広くこの魅力を伝えたいです。

一伝承について

少子高齢化の影響もあり、お囃子をする子どもが少なくなった時期もありました。しかし、小学生や園児に、定期的に関の文化を教える機会に恵まれ、子どもに知って

もらう、興味を持ってもらうきっかけを作ることができました。その結果、今では多くの子どもが参加してくれるようになりました。その子たちが大きくなって、楽しかった記憶を頼りに、山車に関わるようになってくれば関の山車は伝承されていくと思います。

一次代の後継者へ一言

関の山車や関のまちなみは、江戸時代から続くとても素晴らしい文化です。ここで暮らす中で、関のまちを好きになってほしい。大人になって生活が変わっても好きである気持ちが変わらなければ、それが次代のまちの発展への原動力に繋がると思います。

お囃子の練習をする子どもたちに、話を聞いてみました

『夏祭りには昔から親と一緒に参加し、子ども山車も曳いたことがあります。大人になっても大好きなこの祭りに参加したいです』『夏祭りは江戸時代から続いていると授業で聞いたときはすごいと思ったし、みんなもっと来ればいいのと思いました』とみんな口々に笑顔で話してくれました。



▲お囃子の練習風景



▲子ども山車
(関宿祇園夏まつり)

関宿祇園夏まつり

旧東海道関宿を関の山車が巡行



とき

7月20日(土)・21日(日)

神輿の渡御 (雨天決行)

- 20日(土) 午後1時～5時 関神社→御旅所
- 21日(日) 午後1時～5時 御旅所→関神社

関の山車巡行 (雨天中止)

- 20日(土) 午後4時30分～10時ごろ
4基揃っての菓子まき 午後6時～ 関神社
4基揃っての舞台回し 午後6時30分ごろ 関神社
午後8時ごろ 中町会場
- 21日(日) 午後5時～10時ごろ
3基揃っての舞台回し 午後7時45分ごろ 中町会場
2基揃っての舞台回し 午後9時ごろ 関神社

子ども山車巡行 (雨天中止)

- 20日(土) 午後1時～2時 吉野屋→関宿旅籠玉屋歴史資料館

行灯飾り (雨天の場合は21日)

- 20日(土) 午後6時～9時 新所地区に行灯が灯されます。

灯おどり (雨天の場合は21日)

- 20日(土) 午後7時15分～8時 西追分→足湯交流施設

関宿紙芝居・写真展示・関宿案内と説明

- 20日(土)・21日(日) 午前10時30分～午後9時 旧落合家住宅

ところ 旧東海道関宿一带

臨時駐車場 関小学校グラウンド

※当日は、交通規制を行いますので会場および駐車場までの進入路にご注意ください。 ※できる限り公共交通機関をご利用ください。
※規制区域内をやむを得ず通行される人は、7月11日(木)までに亀山警察署へ申請してください。